

Special Thanks

主催

NPO 文化交流機構「円座」
青梅アート・ジャム実行委員会

共催

青梅市
青梅市教育委員会

助成

一般社団法人 青梅市観光協会
青梅市まるごとアート支援事業

協力

宗建寺
煉瓦堂 朱とんぼ
JT-ART-OFFICE 勅使河原 純

撮影

橋本 憲一

記録誌制作

Studio Lesserpanda 坂内 ひろゆき
山口 幹也
長倉 陽一
松島 美知子

お問合せ

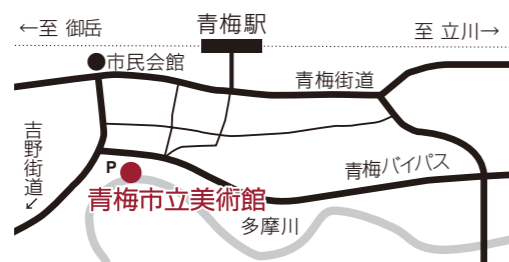
NPO 文化交流機構「円座」
TEL 03-6321-3424
e-mail: enza@wave.dti2.ne.jp
〒158-0097 東京都世田谷区用賀 3-25-1

会場

煉瓦堂 朱とんぼ
東京都青梅市沢井 1403
TEL0428-78-8352
JR 軍畑駅より 徒歩 10 分



青梅市立美術館
市民ギャラリー
東京都青梅市滝ノ上町 1346
TEL 0428-24-1195
JR 青梅駅より 徒歩 6 分





INDEX

2015 青梅アート・ジャム イベント一覧

第1回 ワークショップ「オリジナルうちわ作り」 3P

2015年8月2日(日)

会場：煉瓦堂 朱とんぼ

- 墨と筆で絵を描いてうちわにしよう 講師：江見 高志
- いろんな紙で版を作ってうちわにしよう 講師：鈴木 ひろみ
- 糸や布でうちわをコラーージュ 講師：阿部 静
- 墨流しでうちわに模様を写そう 講師：杉本 洋
- うちわに絵を描こう 講師：池田 菜摘
- 段ボールでうちわ作り 講師：長倉 陽一
- うちわを骨から作ろう 講師：山口 幹也

法螺貝ワークショップ 6P

2015年8月2日(日)

会場：煉瓦堂 朱とんぼ

講師：宮下 覚詮

第2回 ワークショップ「オリジナルうちわ作り」 7P

2015年8月9日(日)

会場：青梅市立美術館 市民ギャラリー

- 葉っぱのスタンプをうちわに押そう 講師：塩野 圭子
- 段ボールでうちわ作り 講師：長倉 陽一
- うちわを骨から作ろう 講師：山口 幹也

第5回 東日本大震災義援展 9P

2015年5月19日(火)～24(日)

会場：青梅市立美術館 市民ギャラリー

座談会「これからの青梅アート・ジャム」 10P

2014年9月22日(火)

会場：宗建寺 別院



COMMENTS

「2016 青梅アート・ジャム」の開催に向けて

勅使河原 純 (美術評論家)

青梅アート・ジャムは、来
年いよいよ節目の第10回目を迎えます。青梅市立美術館、宗建寺、吉川英治記念館などさまざまな組織の協力を得て、本格的な実行委員会が立ち上がり、ようやくピエンナーレという形式が整うところまでやってきました。

しかし、本当にこの青梅アート・ジャムを支えるのは、東京にあってもなお強い独自性を失わない「青梅」という一つの文化からはじまり、つねにその更なる構築を目指し

て突き進んできた参加作家たちの情熱だといってもいいのではないのでしょうか。たとえば「青梅」という山岳地帯を背にする独得の地形を利用した、多摩川沿いの10の渓谷に18作家が作品を展開する試みなどは、発想から実施まで、どう頑張ってもこのグループでなければ実現し得ないプロジェクトでした。

展示の舞台は、内容によって煉瓦堂朱とんぼ、武蔵御嶽神社宿坊、ゆずの里勝仙閣とさまざまに場所を変えてき

ましたし、カナダの人もアジアの人もさまざまなイベントに分け隔てなく参加することができました。だからこそ首都圏はおろか全国との、さらには遠く海外の人々との思いがけないコラボレーションが次々と生み出されてきたのだと思います。

前へ進んで一段落すると、また初心に戻ってきてまっさらな気持ちで取り組み直す。そうした現場のありようは、青梅という文化を愛するみんなの力が厳しく試され、一

面ではさらに強いものへと鍛え上げられるかけがえのないチャンスでもあったと思います。

青梅アート・ジャムという新しい文化の灯が、これからも明るく未来を照らし続けてくれることを固く信じ、地元のあるいは外来のたくさんの人々を巻きこんで、一步一步ゆっくりと進んで行きましょう。それこそが青梅アート・ジャムを見守りつづけてきた市民の皆さん、みんなの願いでもあると思うのです。

ご挨拶

青梅アート・ジャム実行委員会 副代表
江見高志

青梅アート・ジャムの活動に対しまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年、青梅アート・ジャムは、5月に青梅市立美術館市民ギャラリーにおいて第5回東日本大震災義援展を開催、8月にはワークショップを煉瓦堂朱とんぼと青梅市立美術館市民ギャラリーで行った展示はお休みとし、来年よ

り隔年のピエンナーレ形式として一層の充実した展示を目指すことと致しました。テーマは「梅」です。

近年、ワークショップということをよく聞くようになりましたが、本来の役割を考えつつ、今更聞けないと試行錯誤の中、より多くの市民の皆様に美術の素晴らしさと楽しさを知っていただき活力ある街づくりができるよう取り組んでいます。

例えば、パソコンもほとんどわからないまま使い始め、ひとつ調べまた一つ調べている間にどんどん先へ行ってしまう、世の移り変わりに追いつかない自分の姿もありました。しかし、変わらぬものもあります。仕事に打ち込む人の姿は素敵で、それぞれの流儀を打ちたて、作業する姿は美しいものです。また、その仕事ぶりは信頼されうるものとして、営々と続

いています。作家たちの真面目に制作にかかわる姿に触れて、ワークショップに参加した子供たちの心に何かが残っていただけたら幸せに思います。また、参加作家たちも、子供たちとの交流で心とむひとときを過ごすことができました。ここに感謝と御礼を申し上げます。

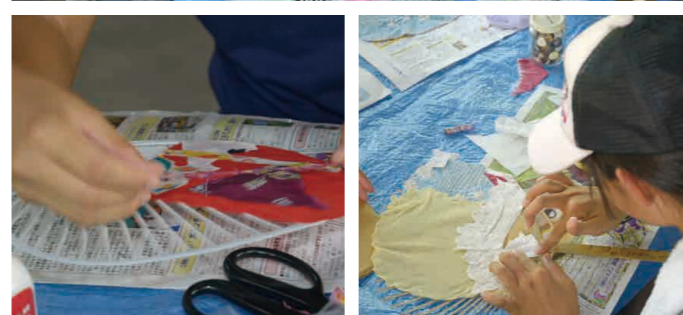


オリジナルうちわを作ろう 第1回 ワークショップ 煉瓦堂 朱とんぼ

2015年8月2日(日)
講師：阿部 静 池田 菜摘 江見 高志 杉本 洋
鈴木 ひろみ 長倉 陽一 山口 幹也



●糸や布でうちわをコラージュ
講師：阿部 静 (インスタレーション)
うちわの骨に布や糸をからめて織り込んで、
面白いうちわを作ろう。



●いろんな紙で版を作ってうちわにしよう
講師：鈴木 ひろみ (版画)
紙を貼り付けたオリジナル版画を
刷ってうちわを作ろう。



●墨と筆で絵を描いてうちわにしよう
講師：江見 高志 (彫刻)
墨と筆を使って絵を描いて、
うちわに貼り付けよう。



●墨流しでうちわに模様を写そう
講師：杉本 洋 (日本画)
水に墨を流して写し取る「マーブリング」を
使って、うちわに絵を写そう。

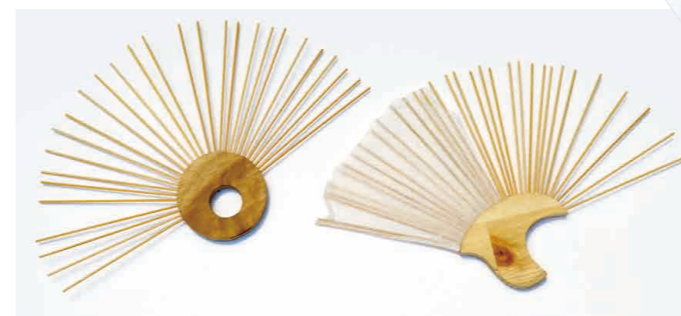
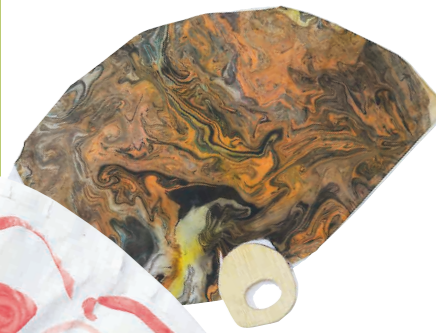




●うちわに絵を描こう
 講師：池田 菜摘（絵画）
 うちわをキャンバスに見立てて、自分の好きな絵をうちわに絵を描こう。



●うちわを骨から作ろう
 講師：山口 幹也（木彫）
 竹や木を加工して、オリジナルな形のうちわを作ろう。他のワークショップで作った紙を貼ればさらに楽しい！



●段ボールでうちわ作り
 講師：長倉 陽一（日本画）
 段ボールに色を塗ったり、組み合わせたりしてうちわにしよう。



法螺貝ワークショップ

2015年8月2日(日) 会場：煉瓦堂 朱とんぼ
 講師：宮下 覚詮（金峯山寺修験本宗教師）

朱とんぼでのワークショップ終了後、会場から少し離れた多摩川のほとりでアート・ジャムのメンバーも初めて法螺貝を吹く経験をさせていただきました。

吹き方はもちろん、扱い方もわからないため、写真にはありませんが皆緊張した面持ちで参加し、短時間でしたが真剣に取り組み、先生方の指導により、最後は皆で息を合わせ音を響かせました。





オリジナルうちわを作ろう 第2回 ワークショップ 美術館市民ギャラリー

2015年8月9日(日)
講師：塩野 圭子 長倉 陽一 山口 幹也



●段ボールでうちわ作り

講師：長倉 陽一(日本画)
段ボールに色を塗ったり、
組み合わせたりしてうちわにしよう。



●葉っぱのスタンプをうちわに押そう

講師：塩野 圭子(型絵染)
いろいろな葉っぱに絵の具をつけて、
葉っぱの模様を写したうちわを作ろう。



●うちわを骨から作ろう

講師：山口 幹也(木彫)
竹や木を加工して、オリジナルな形のうちわを作ろう。
他のワークショップで作った紙を貼ればさらに楽しい!





座談会「これからの青梅アート・ジャム」

2015年9月22日(火) 宗建寺 別院にて



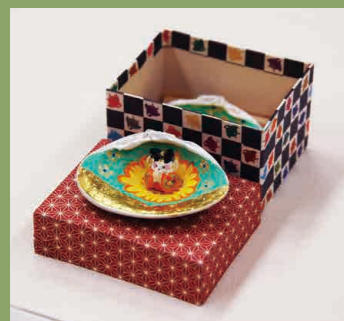
第5回 東日本大震災義援展

2015年5月19日(火)～24日(日)
会場: 青梅市立美術館 市民ギャラリー

今回の義援展をもって、石巻市に義援金を送るのは最後となりました。47名の作家の協力により、前年を上回る義援金、415,260円を集める結果を残すことができ、例年同様学校の備品購入のために充てられ、微力ながらも復旧の役に立つことができました。

【参加作家】

阿部静、阿部修二、池田菜摘、石田美穂、伊藤光治郎、上村由希、漆寫知子、江見高志、扇浦レミイ、香月尚子、河合祥子、菊地順子、北牧奈央子、北村さゆり、木塚和子、木村雅一、黒住和隆、黒田理恵、桑幡紀行、sio.、塩野圭子、白井麻衣子、杉本洋、鈴木麻美、鈴木寿一、鈴木ひろみ、染織工房「豆」、高崎友里香、田尻健二、谷えり子、塚本光、鳥居葉子、長倉陽一、永島貴幸、橋寛憲、林ひろ美、深田絵理、藤浪瑛智、マダジュンコ、森本記子、山口幹也、ヤマザキユキ、山本伸之、由木浩子、若林英子 ほか (47名)



■始めに本日不参加の作家、阿部静、池田菜摘、鈴木ひろみ、大川真実子からのコメントが配られ、次回テーマの「梅」を受けて、青梅の魅力を再考しつつ音楽・舞台・食をコラボした展示会や、御岳エリアの宿坊等を利用して、美術に限らず衣食住を含む文化を複合したお祭りの開催、専任の事務スタッフの配置などの提案がなされました。

◆今日は今後の青梅アート・ジャムの展開についてお話いただけます。これまでの問題点、また今後それをどう展開していくか、代案をつけくわえた形のご発言をお願いします。ピエンナーレ形式についてご意見をいただいて、色々話していこうと思います。今は美術館中心の展示なんですけど、御岳でやっていた初期の展示形態と違ってきているという意見もあったので、今日参加できないメンバーのレポートを踏まえて、議事を進めていきたいと思っています。参加いただいた勅使河原純先生には、アート・ジャムに期待するもの、可能性についてお聞かせいただけてみんなに投げかけていただけるとありがたいです。

観客の反応と作家の仕事

◆江見さんから一人ずつお願いします。

江見 あの広い会場を使わせてもらって、作品を展示できることは自分にとってはたい



へんありがたいなと思っています。一年あるいは二年に一回できるとすれば一里塚として目安となります。ただ、見てくれるお客さんが少なく、そして手ごたえもほとんど感じられない。貸し画廊での個展のように、観客とのもっと濃い時間を持つにはどうしたらいいのかなって。

◆幹也君はどうですか？

山口 今回提案したかったのは義援展のことなんですけど、会期中にやってみたらどうかと。

そうすれば観客も多少は増えるでしょうし、自分たちも楽になれると。それともひとつ、都美館の方でやっている日仏現代国際美術展というのがあるんですけど、そこでは都美館の会場で販売しているんです。直接のお金のやり取りはできないけどお客さんに振込用紙を渡して、それで振り込んでもらうという形で。そのお金は全部義援金として東北の方にもっていくことになっています。売れなかった絵は向こうに送って、どこかの施設に飾ってもらっているそうです。あちらではそういう風な形でやっているの、今まで展示とは同じ会期中にできないって言われていたところを、なんとか話し合わなきゃいけないと思ってたけど、昨日の美術館との話し合いで解決したそうで、よかったなと思います。

◆今まで例えば江見さんが言ったように、今までのアート・ジャムでこういう点が自分にとっては不満だとか不足だとか、もっとこのへん充実させたいのになとか、それにはこういう方法があるのになっていうものがあれば話してもらいたんですけど。今思いつかなかつたら後でも。

山口 そうですね。今こうして実行委員になっていますけど、はっきりどうしていいかわからないというのはありますね。一応はやるべきことはノルマとしてやっているつもりではいますけど、自分からどうやって発信したらよいかという気持ちは強くないもので、本当はもうちょっと、どうしたら我々作家がもっと仕事に集中させてもらえるかということだと思います。あまり人との交渉事とかこういう文章を書いたりというのは苦手なもので、毎度苦手なことを、みんな効率悪くやっているのかなとも思っています。

◆はい。また何かあればその都度後で発言してください。前田君は何かありますか。





ジャンル交流と育成の場

前田 久々の出席でここ何回も会議に出られなかったんですけど、今僕はアート・ジャムには制作では関わってなくてホームページ制作で関わっています。まだ意見がまとまっていないんですが、阿部さんの意見書を見て、色んな横の拡がり、アーティストに限らず美術家、工芸家、パフォーマー、ミュージシャン、料理家、研究者、作家、登山家、文化人など、アートに限らず横に広がっていくようなフェスティバル。こういう方向性っていうのは、他のアートフェスとはまた違った切り口で、アート・ジャムの初回の頃は、音楽だったり書だったり、今も能の中所さんが関わられていますけど、色んな他ジャンルの方が参加していたのは知っているので、ミックスされた面白さというのが、まさにアート・ジャムの

語源なのかもしれないですけど、また見直してみてもいいのかなって思いました。僕はそういう企画には参加したことはないですから、自分としても刺激を受けそうだなと、この阿部さんの意見を見て思いました。次はビエンナーレ形式で来年の9月に会期があるということ

◆はい。わかりました。じゃ長倉君お願いします。

長倉 僕は青ジャムに関わって7~8年くらいになると思います。青ジャムに対して一番最初の頃は旅館や普通のお店や記念館など、いろんな場所で展示をしていたので、そこでの人とのつながりとか、普通の部屋を展示空間に変えることに凄く魅力を感じていて、その他に海外から作家さんが参加していたり、平面だけじゃなく立体だったりアクセサリーだったりお能だったり、いろんなジャンルの方が関わっていたりと、素直に面白いなと思いつながら参加していました。

でも最近ではだんだん縮小されてきている感覚が強くて、美術館の展示が中心になっているのも原因の一つだと思うんですけど、今までは普段展示しないような空間で展示していたのを、今は展示できるのが前提になっている空間で展示しているの、飾ればある程度収



まってしまう感覚が強くなっていて、そういうところに魅力を感じられなくなっているのかなと自分の中で感じています。なので、また原点に戻るような体制にできるといいなと思います。あと、自分も阿部さんの意見と同じような思いを持っていて、美術だけじゃなくて伝統工芸や音楽など、いろんなジャンルと関わってコラボできるようなことができれば、また違った視点で物事が見ることができんじゃないかと思っています。また、自分は最初の頃は右も左もわからない状態で参加していたんですけど、参加しながら学べる部分があったというのは自分にとって喜びでもありました。なので、青ジャムを開催することができればより良いんじゃないかと思っています。

また、いろんなジャンルの方が参加しているので、日本の文化に凄く魅力を感じていて、その他に海外から作家さんが参加していたり、平面だけじゃなく立体だったりアクセサリーだったりお能だったり、いろんなジャンルの方が関わっていたりと、素直に面白いなと思いつながら参加していました。

青梅の街と美術館

◆わかりました。次は事務局としてのご意見をお聞かせ下さい。

松島 事務局は申請書を書くことしかできないのですが、一番思っているのが観客数ですね。せっかく素敵な美術館で、中に入れば多摩川も見えて素晴らしいロケーションなのに、美術館に入ってみなければわからないなって状況だと思うんですね。美術館の方からも観客をたくさんという話もありましたが、美術館があるということが青梅の駅に降りてすぐわからないなってことを感じています。赤塚不二夫記念館や板看さんの映画看板のある昭和レトロの街にある美術館でイベントをやっていることがもう



少しわかるように、青梅市観光協会に働きかけをしなければならぬかなというも感じるところです…。

今、青ジャムのFacebookがあり、「いいね」というクリックはたくさんありますが、観客動員に繋がらないというところなど、どういう方法で広報していかなければならないか大きく考えているところです。駅に降りた瞬間からアート・ジャムが始まっている、テーマである「アートがこの地にできること」を見直して、美術館にも人が目をむけることは何か。ハイキングには来りけれども美術館にはつてもいらっやと思うんですね。どうしても都心から遠いので都内から見に行きたいという魅力的なものにするには、青梅っていう地域、この自然に囲まれたものを生かすっていうことを事務局としては考えています。今回のワークショップのチラシは青梅市内の小中学校に配布させていただきましたが、その割に効果は出ないのだなというところも検討したいところです。

海外作家と新ジャンル

◆はい。ありがとうございます。次は私杉本です。

杉本 前回の実行委員会でお話したので繰り返しになると思いますが、長倉君が言っているように初期の展示形態に少し戻すことが必要かなと思うんで

すね。海外作家を最近呼べないのは、予算面、受け入れ態勢で難しくなっています。今回は海外の作家が滞在できる場所を洗い出し、何人ぐらいの作家を呼べるのかを決め、それから声をかけて進めたいと思います。また、魅力的な作品作りをしている人若い世代の作家に参加してもらい、刺激的な展示にしていきたい。次にきちっと専任の居る事務局を作りたい。そのための収入を確保する方法として、国内外からのクラウドファンディングをしてみたらどうかと思うんです。



どりあえず目標額決めて、それで事務局を維持していく。そうすることで作家が仕事に専念することができるのではないかと思います。また、御岳山の神社、宿坊の方々と続いている流れもあるので、大切に継続していきたい。阿部さんのレポートにあったように「食」について宿坊でやるとか、美術館展示だけにとどまらないで御岳山を使って展開していくということ。色々なアクティブなことは御岳山でやったり、長倉君が言っているように民家に飾りたいのなら、宿坊に作品を飾らせて頂けませんとかお願いができると思います。美術館の方は新作で、宿坊はそれまでみんなに見てもらってチャンスがなかったものを再度展示するとか、そういうことも可能だと思うんだよね。いつも色々アドバイスや、紹介

や口添えをしていただいていた藤崎さんが亡くなられてから、勝仙閣が使えなくなり、泊まる所、展示スペースが無くなりました。またそのような場所を作りたいと願っています。そして演劇・音楽を含めたアート・ジャム、他ジャンルの人たちの参加、たとえばネイルアーティストがネイルを壁一面に貼ってあるような展示とか、ヘアメイクとか、メイクアップとか、そういうジャンルの人たちが入ってきたりするともっとユニークな展示会になりそうなので、そういうジャンルのワークショップがあるだけでも面白いと思うんです。今のところそんな感じで考えているんですけど。

市民参加のイベント

◆では、塩野さんお願いします。

塩野 私もずっと考えていたんですけど、現実的に見ると観客動員数が少ないのは問題という事で、さっき言われたみたいな義援展を同時にやるといのが、かなりの名案じゃないかなって思います。ただ出品内容によっては、再考が必要なのはまともにもあったと思うんですけど、気軽に楽しめるイベントとしての市民参加に力を入れるっていうのは確実に観客動員数は増えますよ。それは明らかですよ。市民が出演すると子供が出演するっていう風になると、必ずその親が家族中で出てくるとかね。そういうのは楽しいイベン



トでいいなって思います。ある意味、それはこの会の原点だと思うので、さっき誰か言われたミックスされた「ジャム」っていう意味を大切にしていきたいなと思います。他ジャンルっていうことでは、音楽とか身体表現とか、いつかサーカスっていう話が出たのでいいですね。いつの間にかそれはどこかにいつあったんですけど、他にもアート縁日とかありましたよね。確かに美術館の制約の中には収まりきらなような多様なイベントをやってみるっていう冒険は大切かなと思います。その中で御岳山地区との関わりが出てくるかなと思いますけれど、例えば御岳渓谷のイベントで、ダックレースと言っておもちゃのアヒルを何百個も流すんです。参加者は自分のアヒルを500円で買って、一番だったら



観客数と原点回帰

◆では伊藤さんお願いします。

伊藤 えー、青梅アート・ジャムという会の最初からいる人は私と杉本氏と鈴木君の3人だけになってしまったんだけど。最初の頃はどんなものができるかわからなかったんだけど、美術館の展示ではなかった。河鹿園とか色んな場所

杉本 梅干しの早食い競争？



ように思います。要するに美術館でやるってということで、どうしても「展示」になり、美術館でやるにしても画廊でやるにしても、それほど変わらず、それがマンネリ化してきてしまった所に有ると思いますわな。

ですからテーマもそうだけど、テーマは我々は面白い、でも一般の人はわかんないんだ。だから、来れない、来ない、っていうことになるのかもしれない。噛み砕いてだから説明する必要もないのかもしれないのだけれども…そこらへんのところ観客動員数とマッチしないんじゃないかと思うんだよな。だからテーマそのものが一般の人がわかりにくい、というかわからない、わかろうとしないのかもしれない。

塩野 これは他の現代美術展と比べたらよほど意味がわかりやすいと思う。ファインアート

はわからないですよ(笑)。

伊藤 一般の人はテーマだけで来る事はまずない。例えばテーマはさる事ながら、参加している人に有名な人が誰かいるれば来るかもしれないよね。そういうことは一般の人の中にはあるのかもしれない。だからって観客動員数がどうって、「来なきゃだめなんだ」と迎合するような事はないような気がするんだけど、私はね。そういうもので皆さんが造っているわけじゃないから。もしそういうもので造っているんだら売らなきゃだめですよ。自分の作品を、売るといふ工夫しなきゃいけない。そうすれば皆、手間賃くらい取れるわけだ。だけど、そうじゃないやり方をしようとしてるわけですよ。だったら観客動員数なんてあんまり関係ないのかもしれないと思うな。美術館は困るかもしれないけど、あの、それともうひとつ、青梅アート・ジャムっていう名称なんだけど、いわゆる色々なジャンルの人達がいてファインアートの人達じゃなくて工芸の人もいれば中野さんのように能の人もいたから、何かいいのはないかと、「青梅アート・ジャム」という名前をつけたんだけれどもね。

あとは、我々の中には今、世界的にもはやされているアニメがないから、アニメを入れればいいですよ。

江見 まあ観客数は増えますよね。

伊藤 あと足りないのだったら文字文化がないよね。小説、書、哲学とか。それがどういう表現になるかわからないけどね。青梅アート・ジャムだったら色々な文化を入れてもいいんじゃないかと思えます。それによってもっと広がって、我々も勉強ができるんじゃないかなあと思っていますよね。それと一番最初に言った、宿泊施設などでやる面白さみたいなものも、これから開発していくべきもののような気がしますね。御嶽神社でいろんなことをやろうとしているから。そういう方向に向いてきてる事は事実だと思えます。皆さん意見があったように一番最初の原点、この町で我々が何が出来るのかということも、もう一度考えてみる必要があると思います。来年がちょうど10年なんだよなあ。

杉本 そうだね。10回目になるね。

塩野 素晴らしい。

伊藤 そういう意味でも原点に帰るといふか、原点に戻さなくてもいいんですけど、何かそういうものの中でやることを考えた方がいいんじゃないかという気がしますのでね。

ステレオタイプのイベント

杉本 そういような皆さんの話なんですけど勅使河原先生、どのよう思われましたか？

勅使河原 う〜んむずかしいなあ。それじゃ伺っているだけで全然まともじゃなくてわけわからないんですけど、ちょっとと言うとですね、これから実行委員会ができてピエナーレという形式が整っていくわけですよ。そういうことは外側から見ると自律性の高いアートイベントとして見やすくなるというところはあると思うんです。ただ外の目を意識してみんなが注目してくれるように考えた途端に、ステレオタイプになるわけです。これは自分たちが素直に発想したというよりも「人が見るアートってこういうことでしょ？アート



の概念をわかりやすくするとこんな感じですよ」そんな模範解答のような感じがして、これと一人一人の作家がどう繋がっているのかっていうことがほとんどわからない。

塩野 わかんないね…。

勅使河原 つまり例えばアートって言葉から発想すると教育っていうのが大事だと、そういうことになると、美術大学とのタイアップが必要ですね。そういう感じで美術大学にダッシュともたれかかるというか雪崩れ込むと、美術大学っていうのは明日の美術を作るっていうので、半ば現代美術なわけです。自分たちの何が一番いい表現かっていう問題はさておいて、現代美術の流れに、とにかくグローバルに合わせていないと大学としてかっこ悪いでしょうってことで、ジャンプし



て現代美術にいくわけですよ。ところが現代美術にいくとやたら哲学的に難しくなって、先生も生徒もわからない。まして、本当の本物は国内にはなくて、ニューヨークやドイツの方に行かないとわからない。ということになると逆に集客では大衆性を図ろうとなる。そういう観念がごちゃごちゃになってわけがわからなくなる。つまり、自分たちから離れて美術つものアートって意味のものを作ろうといった瞬間にステレオタイプになって話が見えなくなるわけですよ。これを繰り返すっていうのは得策ではないなと。せっかく実績もあってユニークな作家たちが集まっているのにそれはちょっと違うかなと思います。それから社会とのつながり、社会参加ですね。それは非常に魅力のある大事なポイントなので、特に海外の作家が青梅とつながれば最高の形になりますよね。これは是非原点に帰るか帰らないかわからないけどもう一回やっていくべきだと思います。ただ、全員がこれに対して異論もなく夢を持つと思うんだけど、現実的にはどこの国のどういう作家とどういう風にコンタクトを取り合っ、招聘していくのかって問題が必ず出てきます。そこで行き詰っちゃうわけですけど、その場合に行き詰まらなくて、私ならやれるという形がこの中にはありそうなんです。これは無理なくそんなに疲れずにやれるのであれば、最高にいい形でやっていくべきだと思っています。

どのイベントも難しい

勅使河原 それから話がまたちょっと外れちゃうというかジャンプしちゃうんですけど、私自身は国のプロジェクトから個人が自力で立ち上げてるアートフェスティバルまでほとんど聞こえてくるものには見に行っています。その結論として申し上げるんだけど、魅力づくりで成功している所はあまりない。ほとんどの所は観客が来ない、経費が出なくて赤字が回収できない、スポンサーをどうするかってその問題で悩んでいますね。これはしっかりした組織としては美術館からNPO、ギャラリーさんまでどこを覗いても必ず「何か良いアイデアありませんか？」って訊いてくるだけです。うまくいっていないのは自分たちだけとか、ここの特色だっという観念がまずは全く的外れ。どんなにうまく見えている所でも必ず何らかの問題を抱えています。これを制作という現場から外して考えちゃうとたぶん地獄に入りますね。だから、作品の質、できた作品をどうやって展示するかっていうこの展示の質の高さ。ここが一つポイントで、このことをいまよりもっと真剣に考えてみる必要があるんじゃないかと思えます。皆様は美術館の空間は、あまりありがたくないという意見が相当あったと思うけど、これはたぶん違う。

杉本 違うんですか。

勅使河原 ええ。美術館を使えるとか、美術館の理想的な展示空間を自分たちがさほど巨額のお金を払わずに使えるということはまずないですからね。何十年待っても廻ってこない。だからこれがどういう仕組みでできるのかは私にはわかりませんが、もし確保できるとすればこのありがたみを自覚して再生させる。そして皆様の作品で何かぶっ飛んだ展示ができればいいですね。

「ぶっとんだ」展示で解決

伊藤 ぶっ飛んだ展示？

勅使河原 そう。それでいい問題は解決だと思います。ただぶっ飛んだ展示が何なのかは、つまりサイズを今までの10倍にするとか、あるいは展示室を床から天井まで埋め尽くすとかね。何がぶっ飛ぶのかはわからないけど…例えば今、

吉祥寺美術館で伊豆の長八って展示会をやってますけどあれはぶっ飛んでますよ。つまり今だったら彫刻家の展示なんだろうけど、江戸時代なもんだから彫刻家が存在しない。だから左官屋さんがコテで彫刻をやるわけですよ。そうすると彫刻のようなただの壁遊びみたいなのが出てくる。それでぶっ飛ぶわけですよ。そうするとテレビも新聞も報道してくれますね。そういう意味で私としてはここの中でぶっ飛ぶような展示をみんながやれば、それでまずは合格だろうと思えますけど、それができないとなると部屋の真ん中にひとつだけ巨大風船の作家を一人呼んできてドンと置かせるとかね。外から人を呼ぶという手が出てくるんですよ。それがうまくいけばいいと思うんだけど、どういう風に呼ぶのがか大問題であって、それが皆様の日常の活動、あとは青梅の風土とよほどうまく絡まないと。当たればその人の成果になっちゃって皆さんは全部置いてかれるわけですよ。当たらなければせっかく手間暇かけたのになんのかこちゃみたいな、やっぱダメだったねって話になっちゃうの





で、ここは考え所ですよ。

伊藤 あの美術館でぶっ飛んだ展示をしようと提案すると全部キャンセルされちゃうんですよ。

勅使河原 美術館自体は保守的だから、ぶっ飛んだ展示と聞くと尻込みしちゃってまず NO でしょうね。だからゲリ的に騙すとかね。あるいは理路整然と説明して、これが最先端のアートでこれが展示できないということはアートを認めないという話だよって、そういう風に議会にも説明しなさいと教育するとか。

伊藤 あれもダメこれもダメって言われるんだもんね。

杉本 可能だと思いますよ。言われている消防法の通路を確保するというだけの話だからね。

伊藤 それすらダメでしょ？水がダメでさ。

塩野 土もダメ。

杉本 そういうものを外せばいいだけでしょ？それでもぶっ飛んだものもありますから。逆に言えば理路整然とちゃんとこれはクリアしている、何も問題ないでしょ、しょうがないね、っていうところを落とどころに持って行ったぶっ飛んだものにすればいいだけで、重くなくて軽いもの、引火性の少

ないもので、避難通路が確保されていて、土、植物以外のもの…探せばいくらでもあるわけだから、できないことはないと思います。それは工夫だよ。戦っておけばいいっていう今の先生の意見でなるほどなって思ったのは、僕らは今会場に振り回されちゃって一番詰まんないところにはまり込んでいる気がするんです。だから美術館でこんな風にできるんだっていう、びっくりするようなぶっ飛んだ展示にしたいですね。

伊藤 かつてない展示のしかたをすればいいんだよね。

杉本 前回のアトリエ展だって美術館としてはないジャンルの一つではあるんだけど、もっと進ませてみたっていいわけで、アート・ジャムがアート・ジャムとしてやっていけば面白いことになるんじゃないか。美術館展示は、市とか行政ではなくて作家とか市民が企画して展示する美術館にしようというのが、アート・ジャムの原点の一つだったのだから、その美術館展示を外すより、使いこなす視点も大事な。

勅使河原 あの、私の実感から一つ最後につけ加えますと、観客の鑑賞眼、目っていうのは皆さまが思っている以上に遙かに高い。日本の観客は世界中の展示を見てきていますからね。ということは、偽物は全部見破られる。これは念頭に

置いていただきたい。だからさきほどのアニメーションも魅力があっただけで、これが本物である必要がある。つまり客寄せのためにこの日だけ連れてきましたよというのは全然ダメ。全くの外れになっちゃう。アニメーションも多くの組織、ほとんどの美術館が手をつけています。漫画とアニメーションを観客集めにね。それでうまく行ったところはほとんどないですよ。

伊藤 ない？

勅使河原 ええ。美術館でやると不入りなんで野原でやれば来るかもしれませんよ。だけど、ちょっとその辺に少し齟齬がありますね。

作家 Day とサポーター展

杉本 それと、ひとりひとりばぶっ飛んだ展示をイメージしていただいて 50 日間をどのように魅力的なものにするかとか考えて、問題は入場者数ですよ。さつき江見さんが言われていた入場者の反応や、どうい人が来てくれているのかが解りにくいというのがあったんで、僕なりに考えたのは、50 日の内一日だけ江見 Day とか山口 Day を入れて、各作家が終日いる日を作り、質問があればその日に行くという形にする。各作家が自分の友達を 50 人呼べば 10 人いたら 500 人になりますからね。それだけで単純

勅使河原 次回メンバーとして入ってくれるかもしれませんよね。

伊藤 そのサポーター展って、今ここで教室やって、生徒が 15 人くらいいるわけだけど、そういう人たちも市民ギャラリー



に人が増えるから、ある程度数はをクリアできるよ。

勅使河原 例えばこの地域である程度の実績のある作家を 100 人呼んで、作品は出さなくてもいいと。ほんと小さな置物をおつき合いでポコッと置くだけでいい。それでいいから参加してもらうということで 100 人集めてくると、観客だけはガバーッと集まるのではないかと思うけどね…。

杉本 例えば市民ギャラリーに 50 日の内の 1～2 週間をサポーター展、義援展を開く。今まで義援展に出したり、アート・ジャムに参加した作家にも声をかけて、もう一回美術館で展示しない？って言って、みんな声をかけ、出してくれる人がいれば、またその人たちの周りの人が反応してくれたりね。

勅使河原 次回メンバーとして入ってくれるかもしれませんよね。

伊藤 そのサポーター展って、今ここで教室やって、生徒が 15 人くらいいるわけだけど、そういう人たちも市民ギャラリー



に展示させたいね。

杉本 あーそれもいいじゃない。そういうアイデアをどんどん出してって 50 日間の市民ギャラリーの使い方を考えよう。「光の家」の展示をやって、次に義援展、サポーター展だとかアート・ジャムに関わった人たちでなんかやったりするだけで、パーツが増えてくると思うの。上の階はアート・ジャムの展示で 50 日をうまく使って行けば人は増えていくと思う。

伊藤 サポーター展示って面白いね。

勅使河原 さっきの観客数の話の中で広報のこともみなさん触れましたよね。だけど観客数、広報を展示内容と切り離して考えちゃうとこれはお金勝負になってハイテク勝負になっちゃうわけですよ。そうすると疲弊しちゃって、一回もたせることはできても継続性は難しいと思うんですよ。だからこの場合にはもっとアナログ広報でサポーターが 100 人あれば少なくとも一人 10 人呼んで来れば 1000 人来ると、じゃ 3000 人とか入れば美術館は文句ないという話であればそこで勝負を決めるくらい掘り起こす。パーツと作家活動している人、こっちに出してるからとか都心で何やっているからみたいな度量の狭いこと言わないで全部だしてもらっちゃおうと。



江見 例えば自分の仲間とかサークル的なものありますよね。そういう人たちに小っちゃい展示しようと、1 階にね。そういうのも良いかもしれませんね。

杉本 市民ギャラリーで色々な展示を決めて、それが流動的に活性化し、増殖細胞的なブースにして、それらの展示が毎回変わるとか。2 階はそれぞれの作家のぶっ飛んだ展示をしていてね。それも 50 日持つぶっ飛んだ展示って言うね。そのイメージで作れこんでもらうと。

勅使河原 やっぱ、その辺のところに負担がかかったにしても作家たちの集まりですから、作品で勝負すとか作品にエネルギーをかけることには疲弊しないんですよ。作品作り以外で動かしまわると疲れちゃう。それで一回担当したからやるけど二回目は勘弁となっちゃうんですよ。

杉本 面白いのができそうだよ。とにかく作品に集中しようってことだから、二年間待ったら展覧会がガラッと変わるような展示にしたいので、各作家が「あと壁面 10 メートルくらい？」っていう勢いの展示にしたいね。

勅使河原 それの実現したら広報はいらないかもね。自然にくる。もちろん手は打ちますよ。メディアに発送するという基本はやるにしても、無理やり



引っ張り出すね、美術記者一人一人に電話かけてお義理でも来てよって話にはならない。それが本来の姿なんじゃないですかね。

杉本 そうですね。なんかそういう事を踏襲しながらね。アート・ジャムはビックネームの人が集客する展覧会ではなく、作家を育てるってスタンスでやっている会なんです。そういう意味で展覧会が展示だけじゃなくて作家が育ち、刺激し合う場であるってことが、アート・ジャムの一つのコンセプトであったよね。美術館サイドに観客動員数が少ないと言われて委縮してしまうより、逆に振り回してしまう企画をして、美術館は困るけど人が来ちゃうから何も言えなくなる、でも火事だけは気を付けてくださいとか、それくらいのことだと思っただよね。

美術館は権力者？

勅使河原 美術館は権力機構なんで、美術館の言うことはいはいつて聞いていると知らず知らずのうちに絵描きが権力者になるかもしれませんよ。

伊藤 絵描きが権力者に？

勅使河原 そう、意識しないうちに俺は美術館の作家だという形の権力、美術って実は相当に権力的なんですよ。こんなこと、こんな場がいい出すと変だけど(笑)。

杉本 歴史を見てもそうですね。

勅使河原 要するに三種の神器ってあるじゃないですか。あれは天皇という権力者が三種の神器を取りそろえたと思っただけで、実はそうじゃなくて三種の神器というものがあってそれを手にしたものが天皇の地位に就くという側面もあるわけですよ。ってことは三種の神器を作っているアーティストも相当に偉い。つまりアートっていうのはかなり怖い営みですね。だから黙って美術館の言うことを聞いていると自分では意識しないのに権力者になってしまう。だから、美術館の言うことは、はいはいって聞きながら一切従わないっていうね。紙一枚は墨で絵を描いて展示していいわけでしょ？文句ないよね？じゃそれを一万枚展示して何で悪いのっていつて全部天井から吊っちゃう。そういう太刀しさを備えて美術館を市民の手に取り戻すという。これは心のなかの問題で、実際に戦争する必要はないですよ。やっただけから粉々にされますから。いうこと全部聞いて助成もちゃんもらって、だけど現実としてはアートの場だとアーティストのものだという感じで利用してあげれば、それが市民が最も好むこと。やっぱアートっていうのは権力じゃないんだねってことを確認する場になりますからね。

伊藤 肝に銘じときましよう。

勅使河原 すみません偉そうに
いって(笑)。

杉本 いや、本当にそうだと
思います。今までに常に権力
者に従うよう従わなかったり
というようなね。
ミケランジェロもローマ法王と
作品について争ったり、ルネッ
サンス期のメディチ家とアー
ティストとの関係を見たって同
じですよ。
日本の場合は、将軍家、天皇
家などのお抱え絵師が権力の
称号の「法橋」って印を持ち、
宗達・光琳も印を押すことで
最高位の絵師と評価され、そ
れが現在は帝室技芸員とか
芸術院会員に繋がり、それは
今も日本画の世界にずっとあ
るんですよ。

新しいワークショップ

◆他にいろんなご意見はあり
ますか？ どうですか塩野さん。

塩野 そうしたら具体的に例
えば海外作家とか市民参加は
どういう風に考えたらいいの
かなってのがありますね。
あとはワークショップはやりま
すよね。ワークショップは市民ガ
ラリーでやるのか、また朱とん

ぼみたいところでやるのか、
それとも他の所でやるのか。そ
ういう話もあるかなと思うん
ですけど。

杉本 例えば、今回阿部さん
が提案している「食のワーク
ショップ」、それを御岳山の宿坊
でやってみたらいいんじゃない
かって思うんですよ。食文化つ
てもものがあるんだから、ワーク
ショップにして考えていけたら
いいと思うんです。小学校の
ワークショップもだんだん内容
が変わっていきだけというパター
ンに陥っているから、全く違う
ことやろうよ。食と音楽をミッ
クしたものを山の上でやり、美
術館を見てから来てくださとい
として、美術館に迎えに来て御
岳まで連れてってもらうのもい
いね。

塩野 集合場所美術館(笑)。
そういう仕掛けをいろいろアイ
ディアを出して考えるのは大事
なことですよ。

杉本 「食」と言うと、絵には
興味がない人も、広報を見て
来る人がいると思うんだよ。

塩野 梅スイーツとかなんかそ
ういうのでコンクールやったり
とかしたら楽しいでしょうね。

杉本 梅をテーマにした食の
ワークショップで、声をかけて
展開していてもいいと思うし、
そうすると料理研究家と興味
がある人がボランティアに來
てくれたり、メンバーの中でや
りたい人と連携してやってい
けたらいいしね。

松島 小学校でのワークショッ
ク後、制作したものを市民ガ
ラリーに展示したら皆さん見
に来てくれる、そういうことも
いいですよ。今回のワークショ
ップは、制作したものをみんな



持ち帰っちゃたので、展示して
見せてあげられたらいいなど。
FacebookやHPに載せて、こ
んなにすごいものが作れたこ
と、こんなに楽しかったんだよ
ていうことを伝えたいんです
が、個人情報があるので、配慮
しなければならぬ。何とか活
動を伝えたいのですけど…。

山口 このあいだ自分もワー
クショップをやって、やっぱり教
える事ばかりでそういう事まで
気がまわらなかったですね。
始める時も「じゃ始めます」と
言っただけで、自分たちは普
段こういうものを作っている
けど、今日はこういうことをや
りますよって説明が全くなかつ
たんで、次回からはその辺の
ことも必要なんじゃないかな

前田 ノウハウとか共有でき
たらいいですよ。

塩野 夏休みの子供の工作
みたいな始まり方をしちゃう
からね。

違うジャンルの共同作業

◆あと君は事務方で、今のよ
うに写真を撮ってもらったり、
フライヤーやポスターを作ったり、
記録誌を作ってくれたりして
いるけど、もっとみんなが楽に
なるのにみたいな意見はある
かな？今一生懸命やっている
けど…年々大変になってる？
それとも年々楽になってる？

坂内 僕が思うに、アート・ジ
ャムは特色として違うジャン
ルの作家が共同作業している
といいますが、同じ机の上で
協力し合って、普段交流しな
いジャンルの人たちが集って

が面白いと思います。
先ほどの話から続きで考
えると、もっと他ジャンルの
人たちが集まってきて、同
じ土俵、箱でもいいんです
けど、みんなで表現するこ
とを考えていくと、それぞ
れのアーティスト同士の刺
激になるのではないでしょ
うか。アート・ジャムの「
ジャム」の部分にこめられ
た意味をつき詰めていたら
、より意義がある活動がで
きるような気がします。例
えば僕自身が、日本画や版
画の専門的な技法を知らな
かったり、自分の専門だと
当たり前のことだったり



するんですけど、そういう制
作の可能性が広がるような
、表現の交流の場になって
いったらいいと思います。

◆あと君は事務方で、今のよ
うに写真を撮ってもらったり、
フライヤーやポスターを作
ったり、記録誌を作ってく
れたりしているけど、も
っとみんなが楽になるの
にみたいな意見はあるか
な？今一生懸命やっている
けど…年々大変になって
る？それとも年々楽にな
ってる？

坂内 参加されている皆様は、

制作が本分のいわゆるアー
ティストにも関わらず、だ
いぶ手伝っていただいている
なっていう感じがしますわ
な。まあ専門の事務の方が
いれば制作に専念できる
って話はあるんですけど、
そこで生まれる交流や発
見もありますし、意外と
良い面もあるのかなって
思っています。

杉本 専任の事務方が來た
としても、アーティストが
2~3人は常にオブザー
バー的な形で事務方が
独走していかないように、
バランスよくやってい
けるようにした方がいい
とは思いますがね。

松島 坂内さんは、宣材の
デザインの文字や色校正を
まとめるのが本当に大変
だなと思います。皆さん
アーティストなので、色
味やデザインの指示が
厳しい。

坂内 そうですね。結構
独自の集まりだとは思
うのでそういう所は
より良さを伸ばした
らいいと思いますね。

◆ありがとうございます。松
島さんは今までの話を
伺ってどうですか？

松島 はい、もうその
通り(笑)。みなさん何
とされていることとか
考えが及ばないよう
なことをいろいろ話
してください。さ
ったので事務局とし
てしっかりやらな
ければいけない
と思いましたが。

◆伊藤さんは今までの話
の展開の中でなんか
思い当たったこと
はありませんか？

伊藤 やっぱり我々作家
の連中の集まりだ
から事務的なもの
としては相当不備
な点があるよ
うな気がします
わな。これ

が潤沢な資金があ
って事務局があ
ってという風な
ことになってく
ると作家がも
っと楽なのか
なっていう気
がしますわな。
まあでもし
ょうがないよ
ね。作家が知
った踏まずの
なれない事務
方を一生懸命
やることも自
分の経験とし
てね。

杉本 無駄にはなんないよ
ね。

伊藤 いろんなそういう
ものが出てくる。私
も最初の頃は右
も左もわかん
ないのに色々
やらされて、
なんかかか
んとか代表
を務めてきた
んですけど、
それなりに
自分が少し
いろんな世
間ごとが見
えてきた気
がしない
でもない
ですわな。
だから、
結果的に
皆さんが
いろんな
役を持
ってね、
対外的な
ものに
交渉する
ことは
大事な
ことな
んだ
と思
いま
す。江
見さん
なんか
これ
からも
もっと
頑張
って
もら
わな
いと
思
っ
て
い
る
ん
で
す
け
ど。

江見 いやー…

若い作家たちの参加

伊藤 それともう一つ
我々が10年
たって
いう
こと
で、私
も70
にな
って
しま
った
ん
だ
け
ど、
若
い
人
た
ち
が
主
体
的
に
動
い
て
も
ら
わ
な
い
と
こ
レ
は
伸
び
て
い
か
な
い
よ
う
な
気
が
し
ま
す
ね。
我
々
は
固
定
観
念
に
こ
レ
か
ら
固
ま
り
つ
つ
あ
る
わ
け
だ
け
ど
若
い
人
た
ち
は
そ
う
い
う
こ
と
で
な
い
か
ら
ね。
幹
也
君
だ
と
か
長
倉
君
だ
と
か、
そ
の
ほ
か
の
人
た
ち
も
一
生
懸
命
作
家
と
し
て
確
か
め
よ
う
つ
て
準
備
を
き
ち
つ
と
し
て
ら
っ
し
や
る
ん
で
し
よ
う
け
ど、
そ
の
中
で
の
ア
ー
ト
・
ジ
ャ
ム
で
活
動
す
る
つ
て
こ
と
を
目
指
し
て
や
っ
て
も
ら
い
た
い
と
思
い
ま
す
わ
ね。
だ
か
ら
我
々
の、
私
と
か
杉
本
氏
と
か
江
見
さ
ん
た
ち
や
塩
野
さ
ん
は
同
じ
年
代、
そ
う
い
う
も
の
を
外
し
た
意



見
て
い
う
の
を
聞
い
て
み
た
い
よ
ね。
自
分
た
ち
は
こ
う
し
た
い
ん
だ
つ
て
い
う
者
の
意
見
を、
も
う
少
し
発
言
し
て
も
ら
え
た
ら
い
い
な
つ
て
思
い
ま
す
け
ど。
ねっ
長
倉
君
(笑)。

長倉 すいません(苦笑)。

杉本 プレーキ役になりた
いからね。

伊藤 プレーキ役がやめた
方がいいよって
いうね。

江見 美術って日々移ろ
っていくもので、
若い人は面白
いものをど
んどん見
つけてい
くけど、
私はちょ
っと苦
手にな
ったよ
うです。
ただ、
さき
ほど
勅使
河原
さん
が言
われ
た
様
に、
本
物
つ
い
て
い
う
こ
ろ
に
惹
か
れ
ま
す
ね。
そ
こ
を
と
こ
と
ん
や
り
た
い
気
持
ち
は
あ
り
ま
す。
個
人
と
し
て
も
と
力
を
つ
け
た
い
と。
サ
ー
ビ
ス
精
神
じ
ゃ
な
く、
前
し
か
見
な
い
作
家
に
な
り
た
い
で
す。

伊藤 わかりました。江見
さんが言いたいこと。

江見 だから、会としては
ね、若い人たちが集ま
ってくるよ
うなイベントも
やらなきゃ
いけない
んですよ。
でもそれは
苦手な人
といるん
ですけど、
協力は
していきます
よ。考
えるのが
得意な
人もいま
すから
ね。そこ
はやって
いただき
たいと思
います。

伊藤 話は変わるけど、

カナダ人画家のアルを呼
びたいね。

杉本 アルは声をかける
つもりだよ。また展
開としてどうなる
かわかり
ませんが、
ドイツ
作家も
渡航費
も自分
で出
して
も
つ
て
い
う
よ
う
な
人
も
い
る
け
ど
ね。
ド
ク
メ
ン
タ
と
か
や
っ
て
い
る
人
た
ち
で
ね。

松島 先生そろそろお時間
が。

杉本 それではみなさん、
実行委員会
制度に
な
っ
て
初
め
て
行
う
ビ
エ
ン
ナー
レ
す
の
で、
前
回
と
変
わ
っ
た
ね
つ
て
言
っ
て
も
ら
え
る
よ
う
な
展
示
を
し
て
い
き
た
い
し、
新
し
く
入
っ
て
く
る
作
家
に
も
面
白
い
ね、
刺
激
に
な
る
よ
つ
て
も
ら
え
る
展
覧
会
に
し
て
い
き
た
い
と
思
い
ま
す。
あ
り
が
と
う
ご
ざ
い
ま
し
た。

全員 ありがとうございます。

- [参加メンバー]
伊藤 光治郎(木彫)
江見 高志(彫刻)
坂内 ひろゆき(デザイン)
塩野 圭子(型絵染)
杉本 洋(日本画)
長倉 陽一(日本画)
前田 純平(版画)
松島 美知子(事務局)
山口 幹也(木彫)

- [事前コメント]
阿部 静(インスタレーション)
池田 菜摘(絵画)
大川 真実子(インスタレーション)
鈴木 ひろみ(版画)